2024年5月24日（金）

第79回ESRI政策フォーラム

「結婚決定要因を探る」
コメント

慶應義塾大学　名誉教授
樋口美雄

人々は結婚によって何を得て、何を失うのか？

結婚で得るもの（便益）＞失うもの（費用）

便益

（1）一緒にいることによる効用の拡大；相手との相性・相手の性格、容貌、容姿、性格、相談

（2）分業・協業のメリット；

- 仕事上のメリット＝所得の上昇と安定、夫婦の分業による仕事の技能の向上・生産性の向上、
- 自営業における労働力の確保
- 家事・育児のメリット＝家事における生産性の向上、技能の向上
- 生活費の削減・貯蓄の拡大＝食費、住居費

（3）その他　子どもを持つことの喜び・安心、介護・看病・孤独死のリスクの低下・・・

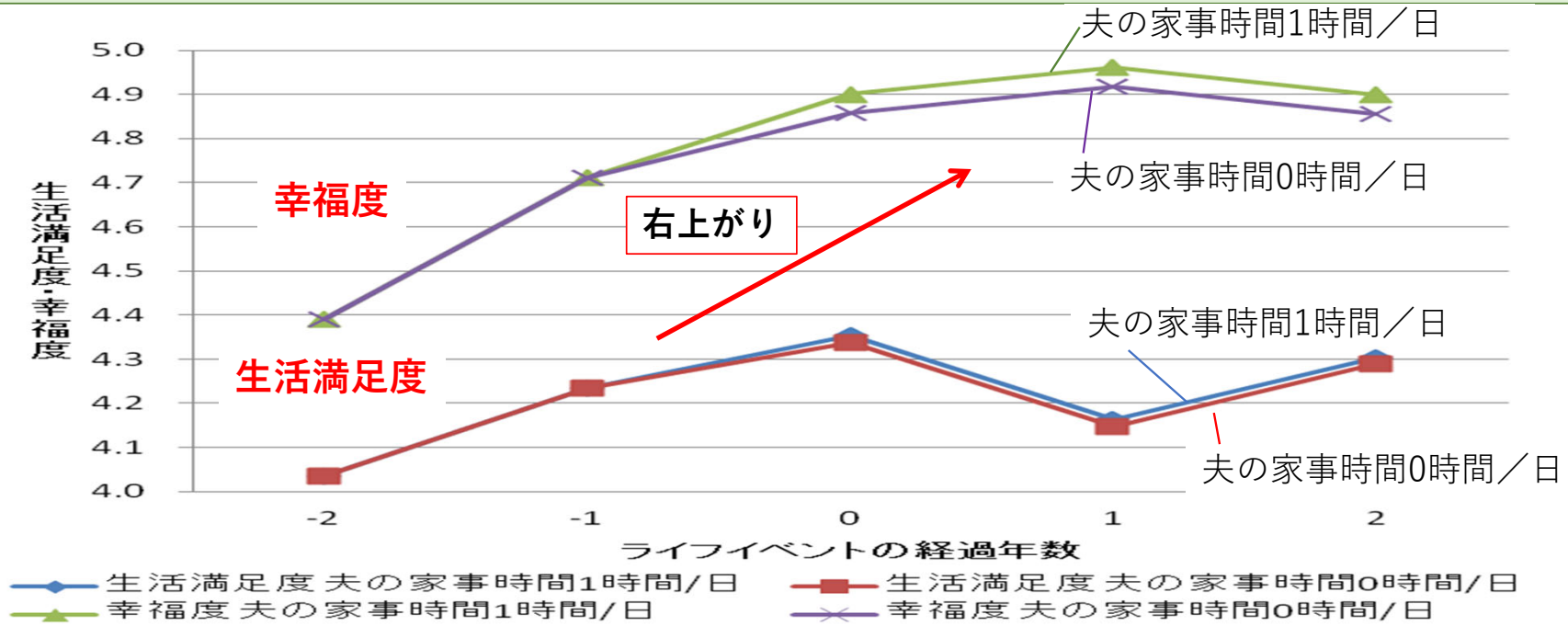
費用

（1）拘束による自由の削減；趣味・レジャーの喪失、心理的拘束、就業への制約

（2）親からの支援の減少（パラサイトの喪失）

（3）その他　子どもの養育

幸福度・生活満足度は時間の経過とともに変化
（パネルデータによる分析（樋口・佐藤・萩原；時間割引率も重要）
結婚前後の女性の生活満足度・幸福度の変化
夫の家事時間による違い

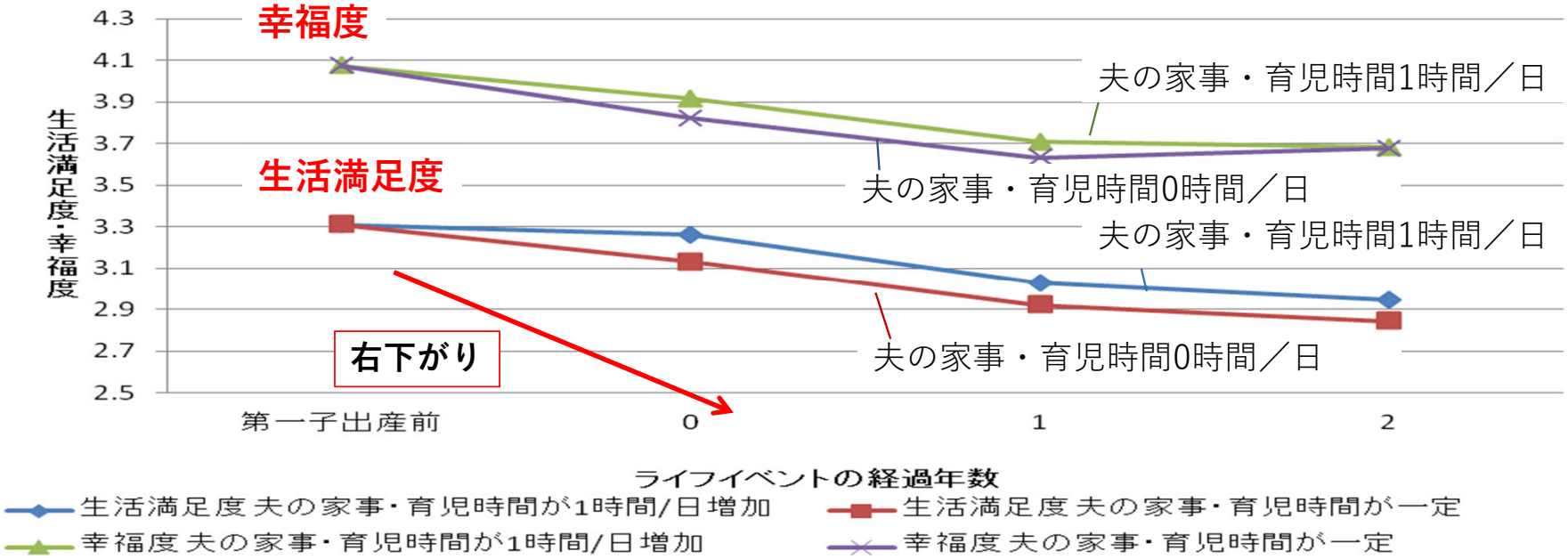


結婚後に夫が家事を一日1時間でもしてくれると、女性は高い幸福感を得られる。
結婚後に夫が家事時間を長くできる政策が女性の高い幸福感を保つためには必要。

出所）筆者作成　JPSC1993-2007

注1）生活満足度・幸福度はどちらも1点から5点の範囲で、得点が高い方が満足であることを示す。
2）モデル(1)、(2)の結果を使用。

第一子出産前後の女性の生活満足度・幸福度の変化
夫の家事・育児時間による違い（シミュレーション）



出産後に夫が家事を一日1時間でもしてくれると、女性は高い幸福感を得られる。
出産後に夫が家事時間を長くできる政策が女性の高い幸福感を保つためには必要。

出所）筆者作成　JPSC1993-2007

注1）生活満足度・幸福度はどちらも1点から5点の範囲で、得点が高い方が満足であることを示す。
　2）モデル(3)、(4)の結果を使用。

少子化は、便益に対する評価が縮小し、費用に対する評価が拡大することによって生じる
価値観・環境の異質性を想定すると、
少子化は、便益が縮小し、費用が拡大する人が増えることによって生じる

少子化＝便益に対する評価はなぜ下がり、費用に対する評価はなぜ拡大したのか？

- 分析において平均的個人を想定するわけにはいかない
  ＝ 価値観や経済・社会環境が異質であるが故に「マッチング」の議論が必要
- 人によって便益や費用（に対する評価）は異なる
- 人によって個別政策の効果は異なる
  （１）経済が豊かになり、結婚による所得増大の価値が下がり、少子化が起こっているとしても、政府は経済力を引き下げるような少子化対策を実施すべきではない？
  （２）所得支援策は、低所得者のみに有効？＝ 所得階層によって支援策の効果は異なる
- 戦前・戦中の「産めよ、増やせよ」の経験から、個人の価値観に触れることを嫌い、日本政府の少子対策は遅れた
- 希望出生率を達成の議論（現在の環境、評価、価値観を一定だと想定する）においても、価値観変更をもたらす政策は回避

三つの質問

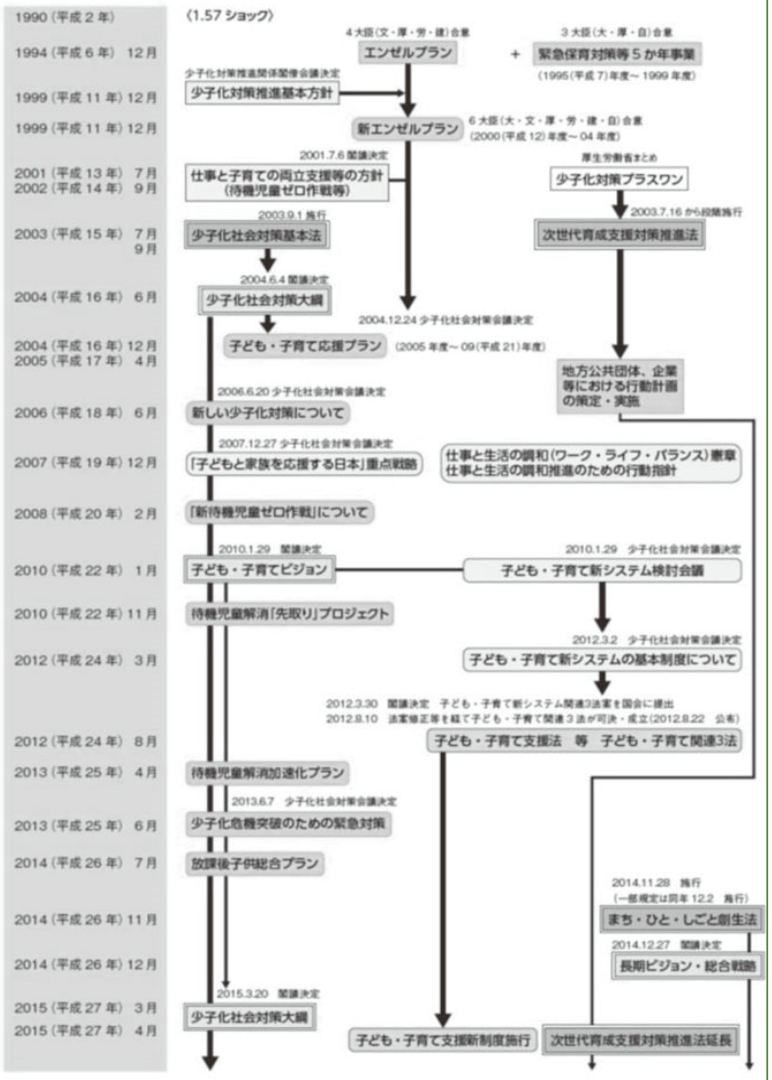
①どのような場合に、政府による介入は必要か、認められるか？

②これまでの少子化対策はなぜ効果をもたらさなかったのか？

③政策実施選択の基準（「エビデンスを活用した未婚対策例」）は何か？

- 個人によって異なる個別政策のコスト・パフォーマンス？
- 多数決で決めるべき？

＜図表 2-4-1　これまでの少子化対策の取組＞



（備考）内閣府「平成 27 年版　少子化社会対策白書」

ご静聴、ありがとうございました。